

研究紹介

連携・接続

家庭・地域等との連携と

異校種間接続の推進

「コミュニティ・スクールと

接続期カリキュラムへの取組」

下関市立安岡小学校長

松田和寛



一 はじめに

今年六月、政府は、「学制改革に関する提言」の素案を明らかにした。「小中一貫教育学校（仮称）の制度化」「教科担任制」「幼稚園での小学校教育の導入」などが盛り込まれ、幼保小中のスムーズな接続をめざしている。下関市小学校長会では、五十二校の多種多様な学校から収集できる多くのデータを強みとして、その現状から課題を明確にするとともに、その課題の解決に必要な情報収集をしながら研究を進めている。本研究では、コミュニティ・スクール推進上の課題である「コーディネート」の促進」と学力保障で中一ギャップの解消をめざした「小中連携による学力向上の取組」、小学校生活への適応や基本的な生活習慣の定着をめざし、生活科を中心とした「スタートカリキュラムの推進」に視点をあて、五校の先進校の実践を分析し、校長の果たすべき役割を明確にした。

二 研究の実際

(一) 家庭・地域等との連携「コミュニティ・スクールの実践から」

- ① 下関市コミュニティ・スクールの概要
- 平成二十四年から平成二十六年までの取組の変遷と現状及び特色
- ② 下関市五十二校のコミュニティ・スクールの運営上の課題



CS全国大会の市内全学校パネル展示

- コミュニティ・スクールの活性化させるためのコーディネート
- ③ 校長会における研修
- 先進校

三 校長の役割



幼保小合同授業研究会

- ネットワークとの対談
- コーディネート促進の方途
- (二) 異校種間接続の推進「接続期カリキュラムのめざすもの」
- ① 小中連携による学力向上の取組の実践
- 児童・生徒の交流
- 教員の交流
- 九年間の教育課程の編成
- 地域・家庭との連携
- ② 幼保小連携の実践
- 少人数学級研究 (三十人学級化) の取組分析
- 幼稚園交流人事の成果からの分析
- 下関市校長会のスタートカリキュラムの研修
- 幼保小連携会議の充実
- (一) 始動に向けての校長の強い発進力と行動力
- (二) 「子どものために」という教育者としての使命感
- (三) 学校経営に必要な明確なゴールイメージ
- (四) 学校運営協議会等での説明力・

四 成果と課題

- (一) 成果
- ① 下関市五十二校の課題の共有
- ② 課題解決へ向けた先進的取組の反映と意識高揚
- ③ 下関市校長会における研修の充実
- ④ 各校における接続期カリキュラムの充実
- (二) 課題
- ① 先進的取組の各学校への確実な反映
- ② 全市的視野からの継続的な取組による研究の深化拡充

五 おわりに

これからますます人口が減少し、少子化の問題が深刻となる。そのため、「地域協育ネットの推進」や「小中九年間の制度化（「五・四」「四・三・二」に区切るなど）」が加速しており、連携や接続の在り方の研究がますます求められる。我々校長は、常に先進的・開発的視点に立ち、地域の実情や発達段階における児童・生徒の実態を把握するとともに、新しい教育のスタイルをイメージしながら学校経営をしていくことが大切であろう。